

SHIN CLUB 305

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「神宮前5丁目プロジェクト」撮影：アック東京

人と街をつなぐ屋上庭園

流行と文化の中心地、「神宮前」。その一方で、華やかな大通りからほんの1本脇道へ逸ればそこには住宅地が広がり、その土地に根を張って脈々と続いてきた人々の暮らしが営まれています。流行と伝統が交差する神宮前に新たに誕生したのが、テナントビル「神宮前5丁目プロジェクト」です。設計を担当したのは、テナントビルのほか、保育園などさまざまな建物を手がけてきた、ツチャタケシ建築事務所の土屋毅氏。「その建物に目的がなくても訪れられる場所」、いわばパブリックスペースとしてのテナントビルづくりを目指したと、土屋氏は語ります。

「神宮前5丁目プロジェクトは、フロア貸しと1棟貸しのどちらも想定された建物です。9割が貸出スペースとなるため、入居者の皆様が自由に店舗をつくれるよう、できる限り余分なものがない状態での設計となりました。だからこそ、残りの1割にすべての想いを込めました」（土屋氏）

9割のテナントスペースはもちろん、たった1割のパブリックスペースが重要だと感じる背景には、土屋氏自身の経験があるのだといえます。学生時代から15年ほど、代官山のヒルサイドテラスにあるアトリエで働いていた土屋氏。「ヒルサイドテラスのテナントは高級すぎて、当時の自分はとても足を踏み入れられませんでした。けれど1階の広場には誰でも使えるベンチがあり、奥には豊かな植栽がありました。たとえテナントに入れなくても、広場で休憩したり昼食をとったりしているだけで、その街の魅力を肌で感じるこ

ができたのです」と、土屋氏は当時を振り返ります。神宮前5丁目プロジェクトの最大の特徴は、建物の外周をらせん状に上がって屋上庭園へ進んでいくルート。入口は街の表通りに面していますが、らせんに沿って裏手へ回ると、普段は目につかないような街の一面を垣間見ることができます。そうして緑豊かな屋上庭園へたどりつくと、パッと視界が開け、街全体の風景が鮮やかに目に飛び込んでくるのです。建物の裏手に茂る大きなクスノキをあえて残した理由は、建て主様、そして近隣住民の方々からの「絶対に切ってはいけない」という強い要望でした。長い時間をこの街とともに過ごしてきたクスノキは、これからはいわば歴史の証人として、変わりゆく街を、そして神宮前5丁目プロジェクトを見つめ続けていくでしょう。

神宮前5丁目プロジェクトの設計にあたって土屋氏が意識したのは、その建物を初めて訪れた人や、建築に関する知識をまったく持たない人にも、設計者の意図が伝わるようなわかりやすさ。設計者の細かいこだわりや難しい思想が詰め込まれた、「わかる人にだけわかればいい」というデザインではなく、小さな子どもでもわかるようなシンプルな表現に重きを置きました。外周をぐるりと回って、てっぺんまで上っていくアプローチは一筆書きのように単純ですが、そのシンプルさのなかにこそ、物事の本質が宿っているのです。

神宮前5丁目プロジェクトは、この街を訪れる人々、この街に暮らす人々、あらゆる人々に開かれた建物として、この土地に根差していくでしょう。

神宮前5丁目プロジェクト



角の丸みが柔らかな印象を与える

「自然」の息吹を吹き込む工夫

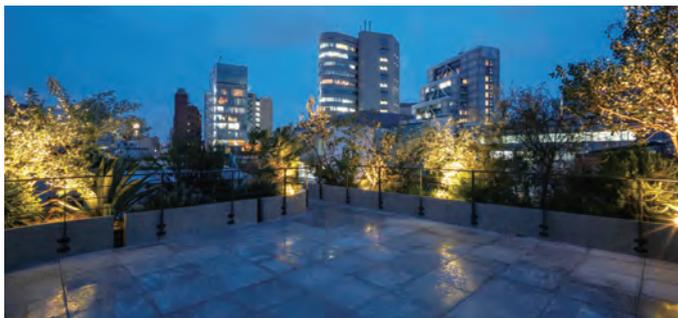
屋上庭園の豊かな植栽が印象的な「神宮前5丁目プロジェクト」。コンクリートの硬さを感じるいわば「建物らしさ」よりも、意識したのは山道を散策するような「自然らしさ」だ。建物の角にも丸みをもたせ、外壁の質感にもこだわった。当初はガサガサとした岩肌のような外壁をイメージし、自然の岩を彷彿とさせるような素材感を出すために試行錯誤。現場からも多くのアイデアを募り、最終的なかたちに落ち着いた。ハイキングのような雰囲気をかもし出すために、入口の階段にも丸みを帯びさせ、手すりにもスチールのロープを用いた。各階のテナントを示す標識も、まるで山の途中で登山者を導く、道しるべのようなデザインになっている。

コーナーもエッジを効かせたシャープなものではなく、なめらかに上へとつながるデザインを採用。型枠やスチールドア、手すりの選定に関しては、多くの事例を参考にした。

こうした「自然」を思い起こさせる工夫に加え、実際にふんだんに植えられた植物の存在も、大きな特徴の1つ。「不動産」という言葉が表すように、建物はその場から決して動かない。けれどもそこに植物があると、それは無機物である建物と生きている人々をつなぐ役割を果たし、建物に生命力を宿す存在にもなる。四季折々のなかでときには風に吹かれ、ときにはたっぷり日差しを浴び、ときには静かに雨に打たれる植物の姿とともに、建物の雰囲気も変わって見えるのである。

植物と建物、どちらにもこまめな手入れが必要だ。建物は日々掃除をし、定期的にメンテナンスをし、植物には気温や湿度に気を配って水をやり、必要に応じて剪定をする。手間暇をかけて育てる必要があるからこそ、人は植物に愛着を持つ。神宮前5丁目プロジェクトには、「植物の世話をするように、建物にも愛着を持ってほしい」という願いが込められている。

(ツチヤタケシ建築事務所 / 土屋毅 談)



夜の屋上庭園



建物夕景



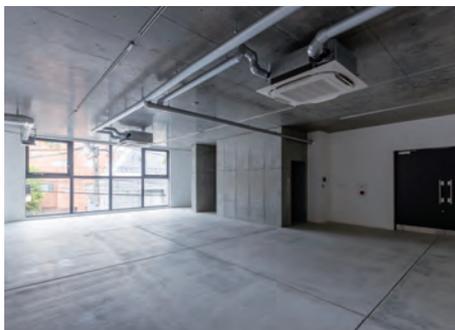
山道を散策するような期待感が高まる



歩みを進めるごとに、新たな風景が



シンボルのクスノキ



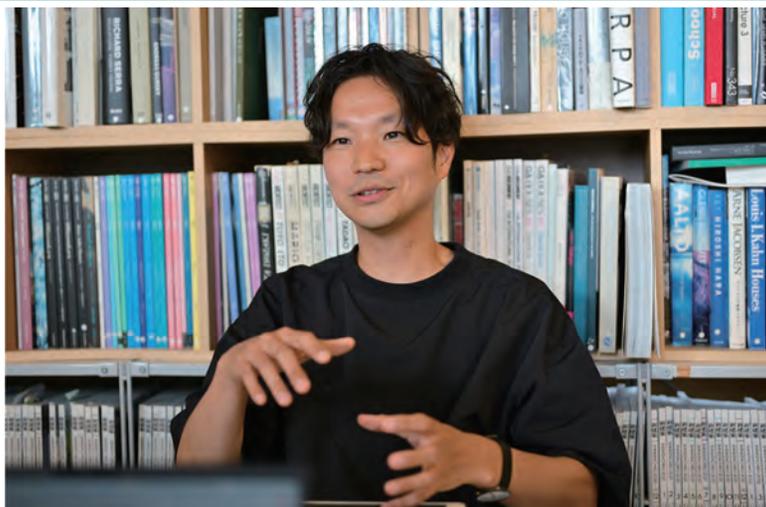
余白を残した室内空間



1階テナント内部

構造：RC造
 規模：地上3階
 用途：店舗
 設計：ツチヤタケシ建築事務所 / 土屋毅・星野杏寿
 竣工：2025年6月
 施工担当：岸崎 / 郷チーム
 撮影：アック東京

Takeshi Tsuchiya



今月は、「神宮前5丁目プロジェクト」の設計者で、ツチヤタケシ建築事務所の土屋毅氏にお話を伺いました。法学から建築の世界に活躍の場を移したきっかけや、アイデアの源に迫ります。

—もともとは法学専攻だったという土屋さんですが、どういった経緯で建築の世界に飛び込んだのでしょうか。

土屋：父が設計事務所を経営していたため、幼い頃から「設計」は身近な存在でした。絵を描くのが好きだったこともあって将来は建築家になりたいと思っていましたが、数学がとても苦手だったので一度は諦め、日本大学法学部を卒業。けれども、「やはり設計の道へ進みたい」と考えて、工学院大学建築学科（夜間）に再入学したのです。趣味として建築物を見たり、建築関係の本を読んだりして身につけた知識が評価され、好成績につながったのがとても嬉しかったのを覚えています。

工学院大学の3年間、日中は学校で知り合った山本圭介さんの事務所（山本・堀アーキテクト）で毎日アルバイトをして、そのバイト代を学費に充て、夜に大学に通うという生活をしました。学校では模型をつくって終わりでしたが、仕事では本物の建物ができあがります。それが楽しくて楽しくて！その気持ちは、当時から現在に至るまでずっと同じままです。こういった気持ちで仕事に向き合えるのは、とても幸せなことですね。

—法学から建築の道に進むというのは大きな決断だったと思うのですが、今日までを振り返り、特にご苦労されたのはどのようなことですか。

土屋：たくさんありました。設計をする際は、とても細かな図面を描いて、細部にまで心を配らなくてはなりません。大学を卒業し、山本さんの事務所に就職して改めてそれを痛感しました。今でも覚えているのは、山本さんとのある会話です。細かな図面とにらめっこしながら、僕はきつと嫌な顔をしていたのでしょうか（笑）山本さんは僕に「めんどくさいと思ってるんだろ」と言ったのです。それに対して「思ってます」と答える僕に、山本さんは、その細かさがなぜ必要なのかをしっかりと説明してくれました。自分のイメージをそのまま形として実現するためには、あらゆることに意識を向けてディテールを考えないといけない。そうでなければ、イメージとまったく異なるものができあがってしまうのだ、と。ディテールにこだわる大切さを教えていただき、貴重な学びを得ることができた経験でしたね。

—多くの建物を手がけてきた土屋さんですが、「つくりたいもの」と「求められるもの」との間に、齟齬を感じることはありましたか。

土屋：独立したばかりの頃は、自分を良く見せたかったですし、正直なところ「目立ちたい」という想いもありました。だからこそ「つくりたいもの」と、「求められるもの」の間にズレが生じることもしばしば。しかし、場数を踏んで経験を重ねていくごとに引き出しの中身は増え、表現の幅は広がり、そのズレは小さくなっていったように思います。

建築家・村野藤吾さんの言葉に、「最後の1%が時として全体を支

配する」というものがあります。建物の99%はクライアントのもので、建築家は残りの1%にしか自分の想いを込められない。けれどその1%こそが、建物全体を語る場合もあるのです。この言葉に出会い、「要望を聞くこと」と「自分を曲げること」はイコールではない、と思えるようになりました。

—仕事をする上で、日々意識していることについて教えてください。

土屋：先人たちの連続性のなかに現在があって、その大きな流れのなかに自分がある。過去に見てきた建築物からアイデアが生まれたり、普段目にしていないものから着想を得たりしますよね。その意味で、すべての発想は過去の延長線上にあるといえるのではないのでしょうか。だから僕自身は、「まったく新しいアイデアを出そう」とは考えていないのです。

僕がつくる建物は、日常の風景のなかにできあがります。新たな設計をするにあたっては、建築家の作品はもちろんたくさん参照しますが、それ以外にも、街中にある何気ない建物にも日頃から目を向けるように意識していますね。子どもの絵本のように、簡単に親しみやすいもののなかに大事なヒントがあると感じているからです。

—最後に、今後の展望をお願いします。

土屋：いくら好きな仕事でも、ずっと同じことばかり繰り返していればどうしても飽きが来てしまいます。仕事の進め方や人との関わり方、建築に対する自分自身の視点を常に改め、飽きずに仕事と向き合えると良いですね。常に初心に立ち返りながら、今後はスタッフたちの個性が出るような建物もつくりたいと考えています。また、これまでお世話になった師匠や先輩方は、口をそろえて「移動空間」の大切さを語っていただきました。たとえば集合住宅をつくるなら、住戸そのものよりも、それをつなぐ共用廊下やエントランス。学校をつくるなら、教室よりもそれをつなぐ廊下やロビー。それぞれの目的空間をつなぐ「移動空間」は、人と人が最も出会う場所だからです。だからこそ、今後は駅やフェリーターミナルなど、人々が行き交う拠点となるような場所も手がけられれば幸いです。

—土屋さんの設計に対する情熱を知ることができました。本日はありがとうございました。



土屋 毅（つちや たけし）

1977年 千葉県生まれ
1999年 日本大学法学部 卒業
2002年 工学院大学建築学科 卒業
2002～ 山本・堀アーキテクト 勤務
2012年
2012年 株式会社ツチヤタケシ
建築事務所 設立
2015年 株式会社に改組

TOPICS/INFORMATION

「2025年手ぬぐいデザイン公募」結果のご報告

2025年手ぬぐいデザイン公募につきまして、先月末に募集を締め切りました。
 厳正な審査を経て、弊社 営業部 野口淳也さん によるデザインが大賞に選定されましたことをご報告いたします。

本作品は、企業イメージとの親和性に富んだ構成が高く評価され、2026年年初より当社公式手ぬぐいとして採用・使用開始の予定です。

【大賞デザイン】



■受賞コメント

複数の候補の中からまさか私のデザインが受賞されると思わなかったです。株式会社辰に合う辰と色をデザインしました。
 来年度から宜しくお願い致します。

営業部 野口淳也

たくさんのご応募、誠にありがとうございました。
 今後とも、変わらぬご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

金沢シーサイド FM 放送 「社長！あなたの会社教えてください」に出演

未だ発掘されていない地域の価値を発掘し、横浜市金沢区エリアの方々に「伝える」ことで、金沢区エリア活性化を目指すラジオ局、金沢シーサイド FM が放送する番組「社長！あなたの会社教えてください」に代表の岩本が出演・収録させていただきました。



横浜市内の収録スタジオにて

辰の会社紹介や事業内容、「こだわり建築」についての対談、リスナーに向けてのメッセージを発信。普段聞く事のできない経営者目線での建設業の魅力や課題点なども含め、パーソナリティと共に語り合いました。



音楽ストリーミングサービスサイト「Spotify」にて配信しております。
 ぜひご試聴ください。



【番組ページ URL】

<https://open.spotify.com/episode/3qh7Kvz0hmnkko4b65mKij?si=HMa0mqb2TMer3unxc0cfZA>

熱い想いを是非お聞きください！

辰和会 ゴルフコンペ 2025 春 5月31日 — 小見川東急ゴルフクラブ —

5月31日(土)、毎年恒例の辰和会 ゴルフコンペ 2025 春が千葉県香取市にある「小見川東急ゴルフクラブ」で開催されました。



あいにくの天気の中スタート

この日は雨天のため、残念ながらハーフラウンドとなりましたが、弊社社員、協力業者合わせて総勢 39 名が参加してのコンペとなりました。

コース終了後には懇親会と共に成績発表、上位入賞者には豪華景品が贈られました。今回優勝を納めたのはネットスコア 36.4 で弐工の有限会社一仮設代表取締役 小林一弥氏。惜しくも優勝を逃し、準優勝を納め



優勝を収めた小林氏

たのはネットスコア 38.0 で硝子工の玉屋硝子興業株式会社代表取締役 松田一良氏という結果でした。

次回は秋に開催予定。
 それまでに自主練を積み、入賞を目指したいと思います。

「(仮称)世田谷区尾山台一丁目PJ」新築工事 地鎮祭 7月14日(月)



近隣ご迷惑にならないよう配慮し、安全第一で工事を進めて参ります。

構造 / 規模 : S 造 / 地上 3 階
 用途 : 長屋
 設計 : 有限会社 坂本建築設計事務所
 施工担当 : 鯨津 / 特建事業チーム
 竣工日 : 2025 年 12 月

「初台 1 丁目プロジェクト」完成内覧会がおこなわれました 2025 年 7 月 29 日 (火)

7月に竣工しました「初台 1 丁目プロジェクト」の完成内覧会が開催され、設計を担当したツチヤタケシ建築事務所の土屋毅氏・担当の大谷一平氏も参加し、来場者へ丁寧説明されました。近日 SHIN CLUB にてご紹介させていただきます。ご期待下さい。



所在 : 東京都渋谷区初台 | 構造 : S 造 | 規模 : 地下 1 階・地上 7 階 | 用途 : 飲食店 + 事務所 | 設計 : ツチヤタケシ建築事務所 | 竣工 : 2025 年 7 月 | 施工担当 : 田所 / 村山チーム

編集後記

・連日災害級の酷暑が続いています。夏のレジャーやお出かけの際は、熱中症や日焼け対策をお忘れなく。喉が乾いていなくてもこまめな水分補給を心がけましょう。

(株)辰 通信 Vol.305 発行日 2025年8月10日
 編集人: 本間夏来/土屋祐一郎 発行人: 岩本健寿
 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル 5F TEL:03-3486-1570
 FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」は WEB 上でもご覧いただけます。
 バックナンバーも PDF で掲載しています。
 スマホはこちらから →

